

第Ⅴ部

おわりに：現代社会における
〈マスメディア・ジャーナリズム〉への展望

VI おわりに：現代社会における〈マスメディア・ジャーナリズム〉への展望

本論では、「ジャーナリズム」と「マスメディア」とが生み出す矛盾と、また「ジャーナリズム」が現代社会に持つ革新的可能性の双方を理論的、実証的に検証してきた。

以下は筆者が本論の冒頭部で提示した3つのテーゼである。

- (1) ジャーナリズムという主体的な意識活動は、マスメディアの周縁に宿る。
- (2) ジャーナリズムの新しい可能性は近代自由主義思想の延長線上には、もはや見出すことができない。
- (3) マスメディアというシステムは、現代社会において「アムビバレントな潜在力の根拠」(ハーバーマス 1981=1987 [下巻]: 409) である。そしてそれは、文化の違いを越えて認められる現象である。

以下、この3つのテーゼを議論の照準にして、筆者が得た「〈マスメディア・ジャーナリズム〉の矛盾と革新」に関する知見を、本論全体を振り返りながら取りまとめ、総括としたい。

- (1) ジャーナリズムという主体的な意識活動は、マスメディアの周縁に宿る。

現在、ジャーナリズム研究は、マスメディアの多様化、情報化社会の進展によって確固とした足場を失いつつある。これまでの研究は、マスメディア・システムの上に立脚した〈マスメディア・ジャーナリズム〉を中心としたものがほとんどであったことがその理由のひとつであろう。筆者は本論の冒頭において、そのようなジャーナリズム研究の状況を認識するとともに、その状況の下での現代社会のマスメディア/ジャーナリズム研究は、「マスメディア」と「ジャーナリズム」という2つの概念を峻別して、社会科学的に再構築を図ることが必要だと述べた。また、これまで自明と見られていた「マスメディア」と「ジャーナリズム」が一致する部分を新たに〈マスメディア・ジャーナリズム〉というカテゴリーとして設定することによって、それ以外の部分、つまりマスメディアとジャーナリズムが互いに完全に一致しない部分の存在に注意を喚起し、それを可視化し、分析することを本論の課題として提出した。

この課題のために、筆者は本論第II部、第III部において、マスメディアとジャーナリズムを別々に考察するという二段階の手続きを踏んだ。まず第II部では、マスメディアの発展過程および現状の実態を「大衆化」「産業化」そして「システム化」というダイナミズムに即して分析した。これらのダイナミズムは、西欧近代に誕生したジャーナリズムを

〈マスメディア・ジャーナリズム〉として社会一般に発展ならびに普及させてきたと同時に、民主主義社会における主体的なジャーナリズムという意識活動を弱体化させた要因でもあったことを明らかにした。つまり第 II 部第 4 章において議論したルーマン理論に依拠するならば、現代社会の〈マスメディア・ジャーナリズム〉の中心部分は、その活動自体が目的となって自己組織化が繰り返されるシステムとなっており、そこでは自由や平等を獲得するための市民による戦略的な言論活動をむしろ異質のものとして排除する方向に機能していると言することができるのである。

二番めの段階として、第 III 部においては、ジャーナリズムの新しい可能性を生み出す政治・社会思想を検討した。C.ムフは、ホッブスの登場によって、近代以降の〈政治的なもの〉は、その規範的側面が廃棄され、道具的概念一色になってしまったことを批判しているが（ムフ 1993=1998: 75）、逆にジャーナリズムの方は、〈政治的なもの〉が規範や理念を失っていく過程の中において、その舞台となっているマスメディア・システム自体の維持が目的となるに至った。このように〈政治的なもの〉と言論、あるいはジャーナリズム活動とは、近代の歴史において手段と目的の役割を逆転してしまった、と観察することができる。従って、現代社会におけるジャーナリズム活動の革新のためには、もう一度〈政治的なもの〉を再興させ、民主主義社会の理念を新しい枠組みの中で蘇生させるところから出発しなければならない。つまり、ジャーナリズムが再び民主主義実現への手段として行使されるためには、ジャーナリズムの活動に理念を呼び戻す必要がある。そこでここに挙げた思想—オルターナティヴ公共圏論、デューイの「パブリック」論、コミュニタリアニズム論、そしてデリバラティヴ・デモクラシー論—は、ジャーナリズムの新たな理念となる可能性を持つ諸思想である、と言い換えられる。ジャーナリズムが持つべき理念ないしは思想への十分な検討なくしては、現代社会における主体的ジャーナリズム活動の蘇生および革新は実現不可能である、と筆者は考える。

以上、マスメディア・システムの発展の歴史的経緯とその現状の実態把握、そしてジャーナリズムを蘇生する思想の諸潮流の考察、という 2 つの段階を踏まえると、「ジャーナリズムの核心はマスメディアの周縁に宿る」という仮説は、確証あるものとして浮上してくる。すなわち、民主主義に価値の基準を置くジャーナリズムの核心とは、システムの維持をその一義的活動目的としなければならなくなってしまうマスメディアの中心部分よりも、むしろその周縁において発生しやすい。ジャーナリズムという活動をマスメディアの周縁に踏みとどまって続けるために必要とする活力の源泉は、多くの場合ジャーナリズムという意識そのものである。その意味で、むしろマスメディアの周縁の媒体にとって、ジャーナリズムとはその存在をかけた活動である。それだけに、ジャーナリズムが持つ意義は中心よりも重い。従って、そうした周縁のマスメディアは自分たちなりに「ジャーナリズム」という概念を現代社会において定義し、解釈しながら活動するという傾向がより

強いのである。

筆者は、そのような具体的事例として、日本の新聞「家庭面」、『ターゲスツァイトゥング』というドイツのオルターナティヴ新聞、そして米国の「パブリック・ジャーナリズム」運動を取り上げた。異なった文化におけるそれらの事例はすべて、マスメディアの周縁部に存在しながら、現代における革新的、そして核心的ジャーナリズムを実験し、推進してきたと言える。これらの事例が第 III 部で検討した現代の民主主義理論のどれに共鳴しているかについては、第 IV 部の小括部分においてまとめた。

この 3 つの事例に見出される共通の姿勢は、それらのいずれもが、現代社会の構造的変動に敏感に反応しながら、ジャーナリズム活動を柔軟に展開してきたことである。それらは〈マスメディア・ジャーナリズム〉とはこうあるべきもの、という固定観念や本質主義的理解から脱却して、それぞれの読者との固有の関係を重視しながら自分たちのジャーナリズム活動の範囲を、それぞれの文脈において柔軟に広げていった。つまり自らの読者たちと何らかの思想を共有しながらジャーナリズム活動が支えられていた、とも言える。そのような特性があるために、これら 3 つの事例は、ある種の「アドボカシー・ジャーナリズム」（特定の思想を支持するジャーナリズム）と見なされて、ジャーナリズムとして未成熟の段階にあるとさえ見なされることが多かった。しかし、筆者はそのような否定的レッテルを貼るのではなく、それは「民主主義理念を推進するジャーナリズムの革新」として評価したい。

また筆者は、事例として取り上げたような周縁の〈マスメディア・ジャーナリズム〉が、現実には多くの矛盾と問題を抱え込んでしまうのは、ほとんどがマスメディア・システムとの間に生み出されるコンフリクトのためであり、その産物であったということを各事例の分析において確認した。それらの事例は、その思想性自体に問題があるというよりも、周縁であるにせよ自らが身を置くマスメディアというシステムとの接触により、実はそこで生み出される数々の矛盾に苦しんでいたのだった。たとえば日本の新聞「家庭面」では、家庭面的記事の人気に応じて同種のジャーナリズムがその他の紙面へと拡散し、かえって自己のアイデンティティを失っていく状況。あるいはドイツの『ターゲスツァイトゥング』では、新聞の地位確保のために「オルターナティヴ・ジャーナリズム」をマスメディア市場において「制度化」しなくてはならないというジレンマ。またあるいは米国のパブリック・ジャーナリズムでは、「読者参加」というコンセプトを掲げて報道に様々な工夫を施しているが、一部の新聞の大手チェーンは、「パブリック・ジャーナリズム・ブーム」を利用して、それを地方紙のマーケティング戦略に利用するという状況。そしてそのことがもたらす運動全体への外部からの批判。それらはすべて、マスメディアとジャーナリズムの矛盾関係の顕在化であると見るべきであろう。

こうして矛盾し合うマスメディアとジャーナリズムは、そこに緊張をもたらすとともに、

相互の中心部分や周縁部分は、必ずしも互いに一致しない、という現象を生み出すのである。マスメディアとジャーナリズムの「中心」と「周縁」に関して、事例研究を通して得られた知見を箇条書きにまとめてみよう。

- ① 周縁に生まれたジャーナリズムが「中心」とのインターアクションを拒絶し、その内側にのみ言論を発信することだけにとどまれば、中心との比較の中での「周縁性」というプロフィールさえ得られないばかりか、社会における「言論発信媒体」としての存在も危ういものになってしまう。
- ② そうであるがゆえに、「周縁」ジャーナリズムもそれなりに力をつけて「中心」に働きかけていかななくてはならない。しかし「周縁」が体力をつけることは、すなわち「中心」へと近づくことを意味し、それは自らのアイデンティティの源泉を枯渇することにつながる。
- ③ 社会変動によって「周縁」と「中心」は動き続ける。ある言論媒体が「周縁」から発生したとしても、社会変動との連関で、いつのまにか「中心」言論へと浮上していくこともある。イデオロギーの運搬者としてそうした社会変動を媒介することこそが言論媒体の機能であるが、そのとき媒体組織自体はアイデンティティ危機に陥る。
- ④ 「ジャーナリズム」という考え方は実は多様な思想的裏付けによって様々な形であってよい。にもかかわらず、「マスメディア」という公共圏における有力な媒体システムの活動がその中心モデルとなっているために、それ以外のジャーナリズムのあり方についての議論が深まらず、「周縁的ジャーナリズム」という存在の影は薄くなっている。今日の社会空間において、「マスメディア」以外のジャーナリズム媒体が生きる場はますます狭まってきている。その活路、あり様も自らで模索していかなければならない。
- ⑤ 周縁性を特性とするジャーナリズムであっても、マスメディアを中心として展開される情報化社会の舞台からは降りることはできない。ゆえにマスメディアの影響は周縁のメディアにおけるジャーナリズム活動に波及することが避けられない。その影響は、周縁部が弱小であるがゆえに、その組織運営に直接及ぶ。たとえばマスメディア企業が作り出した受け手側の環境—視聴者や読者、聴取者の娯楽志向や細分化など—については、周縁のメディアもその存続をかけて、否応なしに対応していかなければならない。

マスメディアとジャーナリズムとは、以上のように矛盾する関係に置かれている。そうだからこそ、その2つを分別して分析し、それぞれが持つ可能性と問題を見極め、双方の

可能性と問題をすべて突き合わせた上で、将来の〈マスメディア・ジャーナリズム〉の展望を考えていかなければならない。筆者は、そのような手順を踏んだ作業を今後のマスメディア/ジャーナリズム研究の方法論としてさらに追求してゆきたい。

(2) ジャーナリズムの新しい可能性は、近代自由主義思想の延長線上には、もはや見出すことができない。

今日、マスメディア・システムの中心にある〈マスメディア・ジャーナリズム〉は、その思想性を喪失している。しかし、そのことを別の観点から見ると、これまでジャーナリズムとは、思想性を持つてはならないという思想、あるいは『『中立的』で『客観的』であるべきだ、という思想』を持っている、ということだとも言い換えられる。このような思想は、自由主義思想に源流を持つと考えられるが、そうしたジャーナリズムの「思想性排除の思想」を批判的に考察し、自由主義以外の新しい思想潮流とジャーナリズムとの接続を試みたのが第 III 部の民主主義思想の理論的考察部分であった。

第 II 部で概観したとおり、近代の歴史では、言論活動の大きな部分がマスメディア・システムへ収斂して発展するという形をとってきた。その発展のためには、社会における共約可能なもの、あるいは共通の関心事は〈マスメディア・ジャーナリズム〉において表出させ、それ以外の共約不可能な思想や信念については、多くの場合、別の場所、媒体によって表現されるべきであるという流れが作られていった。これが西欧近代における自由主義的「言論の自由」思想の発展様式であり、〈マスメディア・ジャーナリズム〉という形態を育んだ磁場であった。筆者はそうした「思想を否定する思想性」を持つ〈マスメディア・ジャーナリズム〉が拡大していく過程を、マスメディアの「大衆化」「産業化」「システム化」の 3 つの局面に切り分けて分析した。「大衆化」という局面においては、タブロイド化論争と関連させつつ〈マスメディア・ジャーナリズム〉の商品としての「交換価値」の方がその「使用価値」よりも重視されていく過程を描出し、「産業化」の流れでは、「プレスの社会的責任論」の命運を議論しつつ、企業としてのマスメディアが利潤最大化を目的として行動するために市民社会から乖離していく現象を浮き彫りにした。また「システム化」においては、ルーマン理論に依りつつ、マスメディアが「情報/非情報」コードによって終わりなき自己組織性を築き上げていく、マスメディアの無機質なメカニズムについての説明を試みた。

こうして発展を遂げた〈マスメディア・ジャーナリズム〉であるが、ではそれが表現する〈共約可能なもの〉とは、実は何を意味してきたのか、について今日真剣に問い直されるべきであろう。その問いは、現代の政治哲学、社会哲学において最も争点となっている部分に接続する。すなわち、第 II 部第 2 章でも触れたとおり、〈共約可能なもの〉と

は、実のところ、近代ブルジョア社会の雛型から抽出された、それ自体思想性と利害を持つ「イデオロギー思想」であつたのではなからうか。「中立性」と「客観性」、あるいは「公共性」という言葉は、近代の自由主義経済の利害は言うまでもなく、ジェンダーの偏見やナショナリズムなどのイデオロギーを潜ませながら、偏向した理解の中で使われてきたのではないか。

今日、近代的自由主義の見直しの機運に伴って、現代社会の諸現象から過去の歴史的事件に関する言説の解釈に至るまで、それらのラディカルな検証が要求されている。そして、ジャーナリズム自身もまた例外ではなく、次のラディカルな問いを社会から投げかけられている－「いったいジャーナリズムは、何のために存在してきたのか。」

我々はこれまでの議論を振り返り、〈マスメディア・ジャーナリズム〉の発展過程を検証していくと、それは近代自由主義的イデオロギーを推進する道具であつた、と結論づけざるを得ない。

このような〈マスメディア・ジャーナリズム〉の特殊な発展を鑑み、筆者はジャーナリズムという意識活動の将来的革新を見出すために、それをマスメディア・システムから切り離し、現代社会における民主主義の革新的思想との接続を試みた。第 III 部において検討した、オルターナティヴ公共圏、デューイの思想、コミュニタリアニズム、そしてデリバラティヴ・デモクラシー論のいずれもが、これまでの〈マスメディア・ジャーナリズム〉のイデオロギー性を詳らかにする理論であると同時に、新しいジャーナリズムのあり方に対して対案（オルターナティヴ）を与え、可能性を示唆する理論である。とりわけこれら4つの思想に共通する点は、自由主義の枠組みからはみ出した広い意味での〈政治的なもの〉〈パブリックなもの〉の中にこそ、民主社会における重要な政治論争の火種が見出され、自由社会において尖鋭化された社会問題の苗床を発見できる、という議論である。筆者は、将来、ジャーナリズムを改革へと導くためには、ジャーナリストの訓練や養成の強化だけではなく、ジャーナリズム活動の構想を支える根本的思想をラディカルに検証し続けなければならないことを指摘しておきたい。そこからこそ、ジャーナリズムの、ひいては〈マスメディア・ジャーナリズム〉が持つ可能性の新しい稜線が見えてくると考えている。

- (3) マスメディアというシステムは、現代社会において「アムビバレントな潜在力の根拠」(ハーバーマス 1981=1987 [下巻]: 409) である。そしてそれは、文化の違いを越えて認められる現象である。

今日の〈マスメディア・ジャーナリズム〉は、社会のその他のシステムと深刻なコンフリクトを生み出している。プライバシーの侵害やセンセーショナリズム、犯罪の断定的報

道などはその例であろう。また、内容の低俗化、娯楽化も社会の弊害であると一般的に認識されており、そのことは〈マスメディア・ジャーナリズム〉に対する社会からの視線をいっそう厳しいものにしている。

しかしながら、その一方で、第 III 部で取り上げた現代社会の民主主義に関する諸思想は、マスメディアの機能が民主社会において大きなポテンシャルを秘めていると見なし、希望をかけているのである。こうしてマスメディア・システムは社会において弊害と同時に、希望をも生み出すというアムビバレント（両義的）な対象として議論されている。しかしながら、2 番めのテーゼの議論においても述べたとおり、マスメディアのポテンシャルを見出すためには、そこに展開されるジャーナリズム活動の理念を呼び戻さなくてはならない。

マスメディアのアムビバレンツについてももう少し、議論を進めてみよう。1970 年代に起こったオルターナティブ運動とは、当時の若者たちがブルジョア公共圏に対抗するべく、ブルジョア公共圏の持つ価値体系を批判し、その対案としてのオルターナティブ公共圏を創造することをめざす運動であった。しかしながら、この運動は、ともすると仲間内の「サークル活動」的色彩を強めてしまい、一部には極端に社会性が欠如した閉鎖的空間が生まれる結果を招いてしまった。それは新しい社会運動の一部にも見られた傾向である。このような経験を経て、「ポスト・ブルジョア公共圏」の議論では、さまざまな社会運動の萌芽を孤立させることなく、緊密なネットワークを構築していくことが、今日公共圏の再構築にとって大変重要な要件であることが強調されていた。また、同様にデューイは、すでに 1920 年代後半に、民主主義の再建のためにはコミュニケーションを通してパブリック同士をつなげて、「グレート・コミュニティ」を創造しなければならないと主張していたし、また 90 年代にはハーバーマスを初めとするデリバラティブ・デモクラシー論者が日常の様々な会話や討議を緊密なネットワークに結びつつ、デモクラシーを再構築することを提案した。すなわちこれまでのラディカルなデモクラシー論者の多くは、コミュニケーションやネットワークを重視しながら、マスメディアが「コミュニケーション装置」（ブレヒト 1932=1973: 297）として持つポジティブな機能に期待をかけてきたことになる。

確かに現代社会における民主主義を社会にあまねく根づかせようとするならば、マスメディアという社会の広大な範囲に一度に到達できる情報ネットワークの存在を、見過ごすことはできない。デジタル化情報時代のマスメディアはとりわけ双方向通信を可能にしている点も、そうしたポテンシャルに対する期待をますます高めている。

しかしながら、そのようなマスメディアの可能性に期待が膨らむ一方で、第 II 部で見たとおり、実態は厳しい。マスメディアは透明なる情報媒体として、社会の情報の運搬機能を果たすことはもはや不可能であるとさえ考えられる。それは誕生時からの発展過程を通して常にイデオロギーをはらんだ情報媒体であった。加えてそれは、市場原理の下に置か

れた私企業によって運営されている。今日の「殺人的に残酷なメディア市場」(Bird 2000: 227) では競争原理が一層のこと徹底化しており、そうしたマスメディアの環境においては、多くの民主主義論者の理念や期待は跡形もなく紛砕されてしまう。そのような現象は本論の事例研究にも見られた。その点を順に振り返って見てみよう。

まずは日本の新聞「家庭面」であるが、家庭面のジャーナリズムは、第一義的に「女性」というマイノリティとの関わりに見られる。このように情報源、テーマ、そして読者すべてに一貫して、ある特定の社会のマイノリティ・グループに絞り込んだ新聞紙面は他に例を見ない。また社内組織において記者たちが「出世コースからはずれた」周縁部に位置しているという意識が、これまで光が当たってこなかった社会の周縁部に目をむけさせる動機のひとつとなってきた。記者クラブ制度などによって硬直化した「政治面」に比べて、「家庭面」は女性やマイノリティの視点から〈政治的なもの〉の概念を再定義して、新聞におけるジャーナリズム意識の活動を押し広げていった。これは家庭面のポジティブな可能性を体現した側面である。

しかし近年、新聞社中枢の側が、伸び悩む新聞発行部数を改善しようと、人気ある家庭的「大衆ジャーナリズム」に関心を示している。「くらし」面、「社会保障・年金」面、「教育面」などの新しいタイプの「家庭面」が創設されて、中心部からの歩み寄りが始まっている。そのような動きは、家庭面という「周縁部」の存在にアイデンティティ危機をもたらしている。現在、家庭面は組織上の周縁性のみが温存されながら、テーマやイシューだけが中心に吸収されている。その結果、その存在さえ危ぶまれているのである。

2 番めの事例として取り上げた、ドイツの日刊全国紙『ターゲスツァイトング (taz)』は、1970 年代の旧西ドイツにおいて、新聞市場の集中化が進行し、また言論の保守化傾向が強まった時代に、左派オルターナティブ運動に参加する若者たちが創刊した日刊新聞である。そのような背景から生まれた taz は、他の主流メディアとは一線を画した「オルターナティブ」なテーマや議論を積極的に取り上げ、またその組織の構想においても既存のマスメディアが築いてきたありとあらゆる慣行を拒否したのだった。

ところが taz は、開始後まもなく深刻な財政難に陥った。以降 taz は、経営対策を講じるために、そのオルターナティブな組織構造やジャーナリズムの構想に大きな譲歩を迫られることになった。現在の taz は、経営方針を転換して、あらゆる意味でその〈オルターナティブ性〉を削ぎ落としてきていると言える。様々な対策を講じて財政改革に努めた taz であるが、それは今後、さらなる抜本的手段を講じてその財政を改善しない限りは、そのジャーナリズム活動を維持していくことさえ困難な状況にある。

3 つめの事例である米国のパブリック・ジャーナリズム運動は、今日の米国のメインストリーム・ジャーナリズムが生み出すさまざまな問題に直面して、研究者と地方紙のジャーナリストたちが共同で、今日なぜそのような事態が起こっているのかを分析し、それに

代替するジャーナリズムの可能性を模索してきた試みである。

この運動は、読者のジャーナリズムにおける役割を重視するとともに、ジャーナリズムの役割は報道だけではなく、コミュニティの活性化をもめざすという、ジャーナリズムの活動の再定義を行っている。そのことは「自由主義的言論の自由」解釈の修正という思想性につながる多くの論争を生み出した。ところが、今日その実態を観察すると、パブリック・ジャーナリズム運動は、米国において最も影響力のあるマスメディア企業からは批判され、無視されてきており、結局は地方紙の再生という域を出ない運動に留まったまま、現在はむしろその気運が弱まっていると観察される。

筆者は3つの事例の分析を通して、この3番めのテーゼについて、いくらかの見直しを迫る知見を得たと言うべきなのだろうか。3つの事例はその異なった社会背景にもかかわらず、そのいずれもがジャーナリズムの革新へと踏み出しながら、マスメディア・システムの中において、志半ばのうちに軌道修正を迫られたり、あるいは弱体化を余儀なくされている。その上、これらの3つの事例が実践した、それぞれのジャーナリズムが持っている理念は、各事例の活動全体から見ればほんの一時期に実現されただけに過ぎない。その活動の成果は、微々たるものである。ましてやそれは今日の大規模なる〈マスメディア・ジャーナリズム〉の全体から見れば、大海の一滴にも満たないような動きではないか。そのようなものを「ジャーナリズムの革新」と呼ぶことができるのだろうか。こうした事例を目のあたりにしてもなお、マスメディアとは両義的な可能性を持っている、と主張できるのだろうか。これもまた3つ文化を越えて共通する疑問である。

筆者は、こうした疑問を抱きつつも、各ジャーナリズムの実験の成果は、たとえ小さくても、マスメディアの両義性の積極的契機であると評価するほかはないだろう、と考える。「ささやかなこと」へ積極的な評価を与え、それを現代社会の「革命」と見なすことから出発することが、ラディカル・デモクラシーの本領であることは筆者が本論の随所で強調してきたことである。花田は「〈パブリックなるもの〉(…)は現われては、またすぐ消えてしまうような不定形をしている」(花田 1999: 45)と述べているが、そうした瞬時の存在としての〈パブリックなるもの〉は、永続的に確立された制度の真ん中に広がりを持って現れるのではなく、暫定的、刹那的、あるいは情熱的に始まる周縁部の緊張感の中に不定形として抽出される、と言うべきだろう。

以上、3つのテーゼを本論全体の流れを振り返りながら検討してきた。

筆者が本論において描出したかったのは、現代のジャーナリズムの革新的ダイナミズムの諸側面のグローバルな展開であった。従って、筆者のねらいは、事例ごとに各文化のジャーナリズムを描き、それらの比較をするという点にあるのではなく、ジャーナリズムという活動が現代社会において、いかなる問題に直面しており、それにもかかわらず、いかに

別の選択肢を発見してその再建を試みているかという実験を観察し、そこから引き出されるマスメディア/ジャーナリズムに関する様々な知見を記録することだった。

最後に、異なる文化における3つの事例に備わっていた共通の精神は次の3点であったことをもう一度強調しておきたい。

- 1) ジャーナリズムを対立的意識の言論空間と見なしたこと。
- 2) ジャーナリズムを歴史的な見地からイデオロギーの力学と見なしたこと。
- 3) 「公共性」とは何か、ということ考えたこと。

言うまでもなく、この3点は、第Ⅰ部において筆者が「意識の活動としてのジャーナリズム」として提出した定義の諸点である。本論で取り上げた事例も、いつかは修正され、更新され、別の形となって変転していくだろう。しかしながら、こうした精神を持つ、ジャーナリズムという意識の活動は、社会の中から決して消えていくことはない、と考えている。

参考・引用文献一覧*

阿部潔 (1998)『公共圏とコミュニケーション ―批判的研究の新たな地平―』ミネルヴァ書房。

Abel, Elie (1984) Hutchins Revisited: Thirty-five Years of Social Responsibility Theory. In: Robert Schmuhl (ed.) *The Responsibilities of Journalism*. Notre Dame, Indiana: University of Notre Dame Press, pp.39-48.

赤堀三郎 (1999)「コミュニケーション変動の記述法 ―コード概念を手がかりに―」『ソシオロギス』23号、167-181頁。

Alexander, Jeffery C. and Neil J. Smelser (1999) Introduction: The Ideological Discourse of Cultural Discontent. Paradoxes, Realities, and Alternative Ways of Thinking. In: *Diversity and Discontents. Cultural Conflict and Common Ground in Contemporary American Society*. Princeton, New Jersey: Princeton University Press, pp.3-18.

Allan, Stuart (1999) *News Culture*. Buckingham, Philadelphia: Open University Press.

穴場歩 (1991)「緑の党の発生と戦後西ドイツ」犬童一男・山口定・馬場康雄・高橋進編、『戦後デモクラシーの変容』岩波書店、70-111頁。

新井直之 (1979)『ジャーナリズム いま何が問われているか』東洋経済新報社。

アーレント、ハンナ (1958=1994)『人間の条件』志水速雄訳、ちくま学芸文庫。(*The Human Condition*. Chicago: The University of Chicago Press.)

Arendt, Hannah (1968) *Between Past and Future*. New York: Viking Press.

Arendt, Hannah (1981) *Rahel Varnhagen. Lebensgeschichte einer deutschen Jüdin aus der Romantik*. München, Zürich: Piper. (『ラーヘル・ファルンハーゲン：あるドイツ・ユダヤ女性の生涯』寺島俊穂訳、未来社、1985年。)

有馬真喜子 (1981)『『家庭』記者』『朝日新聞記者の証言 4 ― 学芸記者の泣き笑い』朝日ソノラマ、188-240頁。

朝日新聞社 (1998)『朝日の読者 DATA BOOK 1998』。

* 新聞、ならびに非学術的雑誌については、本文中のテキストに記すのみとした。また、事例研究で用いた一次資料やホームページについては、各事例研究の最後に関連するものをまとめて記した。

なお、外国語文献については、本文中に引用したものが邦訳書の場合は邦訳書を先に、原著を引用したものは原著を先に挙げた。両方使用したもの、および参考文献としてのみ用いたものは、原著を先に記した。

- 馬場靖雄 (1990) 「批判としてのメディア論 - 跳び越えられた差異 -」『ルーマン/来るべき知』勁草書房、197-218 頁。
- Baecker, Dirk (1996) Oszillierende Öffentlichkeit. In: *Medien und Öffentlichkeit. Positionierungen Symptome Simulationsbrüche*. München: Klaus Boer Verlag, pp. 89-107.
- Barbar, Benjamin (1996) Foundationalism and Democracy. In: Seyla Benhabib (ed.) *Democracy and Difference. Contesting the Boundaries of the Political*. Princeton, NJ: Princeton University Press, pp.348-359.
- Bates, Stephen(1995) *Realigning Journalism with Democracy: The Hutchins Commission, Its Times, and Ours*. (Washington, D.C.: The Annenberg Washington Program in Communication Policy Studies of Northwestern University.) URL: <http://www.annenberg.nwu.edu/pubs/hutchins>.
- Bates, Stephen (1998) The Commission and its Lessons. In: *Communication Law and Policy*. Volume 3, Spring 1998, No.2, pp.141-161.
- Baynes, Kenneth (1994) Communicative Ethics, the Public Sphere and Communicative Media. In: *Critical Studies in Mass Communication*. 11 (1994) , pp.315-326.
- Bell, Daniel (1993) *Communitarianism and its Critics*. Oxford: Clarendon Press.
- ベラー、ロバート N. (1985=1991) 『心の習慣: アメリカ個人主義のゆくえ』 島蘭進・中村圭志共訳、みすず書房。(Habits of the Heart: Individualism and Commitment in American Life. Berkeley: University of California Press.)
- Benhabib, Seyla and Fred Dallmayr(1990) *The Communicative Ethics Controversy*. Cambridge, Ma. and London, England: The MIT Press.
- Benhabib, Seyla (1996[a]) Introduction. The Democratic Moment and the Problem of Difference. In: Seyla Benhabib (ed.) *Democracy and Difference. Contesting the Boundaries of the Political*. Princeton, NJ: Princeton University Press, pp.3-18.
- Benhabib, Seyla (1996[b]) Toward a Deliberative Model of Democratic Legitimacy. In: Seyla Benhabib (ed.) *Democracy and Difference. Contesting the Boundaries of the Political*. Princeton, NJ: Princeton University Press, pp.67-94.
- Bird, S.Elizabeth (1990) Storytelling on the Far Side: Journalism and the Weekly Tabloid. In: *Critical Studies in Mass Communication*. 7(1990), pp.377-389.
- Bird, S.Elizabeth (1997) 'What a Story! Understanding the Audience for Scandal', In:

- Lull, James; Stephen Hinerman (eds.) *Media Scandals. Morality and Desire in the Popular Culture Marketplace*. Cambridge: Polity Press.
- Bird, S.Elizabeth (2000) Audience Demands in a Murderous Market: Tabloidization in U.S. Television News. In: John Tulloch, Colin Sparks (eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.213-228.
- Black, Jay (ed.)(1997) *Mixed News. The Public/Civic/Communitarian Journalism Debate*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Blöbaum, Bernd(1994) *Journalismus als Soziales System. Geschichte, Ausdifferenzierung und Verselbständigung*. Opladen: Westdeutscher Verlag.
- Bogart, Leo (1989) *Press and Public. Who Reads What, When, Where, and Why in American Newspapers*. Hillsdale, New Jersey; Hove and London: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.
- Bohman, James and William Rehg(eds.) (1997) *Deliberative Democracy. Essays on Reason and Politics*. Cambridge, Massachusetts and London, England: The MIT Press.
- Bollinger, Lee C.(1998) The Hutchins Commission, Half a Century On – III. Then and now, fear of media in thrall to commercial interests. In: *Media Studies Journal*. Spring/Summer 1998, pp.62-71.
- ブルデュー、ピエール (1996=2000) 『シリーズ〈社会批判〉メディア批判』 櫻本陽一訳、藤原書店。(*Sur la television: suivi de L'emprise du journalisme*. Paris: Liber.; 英訳 (1998) *On Television and Journalism*. London: Pluto.)
- Brooks, Rod (2000) Tabloidization, Media Panics, and Mad Cow Disease. In: John Tulloch, Colin Sparks (eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.195-209.
- ブレヒト、ベルトルト (1932=1973) 「コミュニケーション装置としてのラジオ —ラジオの機能に関する講演—」『ベルトルト・ブレヒトの仕事 6 —ブレヒトの映画・映画論—』 石黒英男訳、河出書房新社、295-301 頁。(Auswahlausgabe in 6 Bänden aus dem Werk von Brecht. Frankfurt am Main: Suhrkamp.)
- Buckner, Jennie and Michael Gartner (1998) Public Journalism in the 1996 Elections. In: Edmund Lambeth et. al. (eds.) *Assessing Public Journalism*. Columbia and London. University of Missouri Press, pp.223-232.
- Carter, Cynthia; Gill Branston and Stuart Allan(eds.) (1998) *News, Gender and Power*. London and New York: Routledge.

- Carey, James W. (1989) *Communication as Culture: essays on media and society*. Boston: UnwinHyman.
- Carey, James W. (1997) Community, Public, and Journalism. In: James Black (ed.) *Mixed News: the public/civic/communitarian journalism debate*. Mahwah, New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers, pp.1-15.
- Carey, James W. (1999) In Defense of Public Journalism. In: Theodore L.Glasser(ed.) *The Idea of Public Journalism*. New York and London: Guilford Press, pp.49-66.
- Chaffee, Steven H. and Michael McDevitt (1999) On Evaluating Public Journalism. In: Theodore L.Glasser(ed.) *The Idea of Public Journalism*. New York and London: Guilford Press, pp.175-196.
- Chalaby, Jean K. (1998) *The Invention of Journalism*. London: Macmillan Press Ltd.
- 千葉眞 (1995) 『ラディカル・デモクラシーの地平 —自由・差異・共通善—』新評論。
- Christians, Clifford G.; John P. Ferré; P. Mark Fackler (1993) *Good News. Social Ethics and the Press*. New York; Oxford: Oxford University Press.
- Christians, Clifford G. (1997) The Common Good and Universal Values. In: James Black (ed.) *Mixed News: the public/civic/communitarian journalism debate*. Mahwah, New Jersey: Lawrence ErlbaumAssociates, Publishers, pp.18-33.
- Christians, Clifford G.(1999) The Common Good as First Principle. In: Theodore L.Glasser(ed.) *The Idea of Public Journalism*. New York and London: Guilford Press, pp.67-84.
- Clark, Chuck (1997) In Favor of Civic Journalism. In: *The Harvard International Journal of Press/Politics*. Summer 1997, Vol.2, No.3, pp.118-124.
- クロージャー、マイケル (1991) 『創刊 —インディペンデント紙の挑戦』川上宏・岩崎千恵子訳、サイマル出版。
- Cohen, Jean L. and Andrew Arato (1992) *Civil Society and Political Theory*. Cambridge, Massachusetts, and London, England: The MIT Press.
- Cohen, Jean L(1999) American Civil Society Talk. In: R.K.Fullinwider (ed.) *Civil Society, Democracy, and Civic Renewal*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield Publishers, pp.55-85.
- Cohen, Joshua and Joel Rogers. (1995) *Association and Democracy*. Edited by E.O. Wright London and New York: Verso.

- Cohen, Joshua (1997) Procedure and Substance in Deliberative Democracy. In: James Bohman and William Rehg(eds.) *Deliberative Democracy. Essays on Reason and Politics*. Cambridge, Massachusetts and London, England: The MIT Press, pp.407-437.
- Cohen, Joshua (1997) Deliberation and Democratic Legitimacy. In: James Bohman and William Rehg(eds.) *Deliberative Democracy. Essays on Reason and Politics*. Cambridge, Massachusetts and London, England: The MIT Press, pp.67-91.
- Corrigan Don H. (1999) *The Public Journalism Movement in America. Evangelists in the Newsroom*. Westport, Connecticut and London: Praeger.
- Crouthamel, James L. (1989) *Bennett's New York Herald and the Rise of the Popular Press*. Syracuse, New York: Syracuse University Press.
- Curran, James and Jean Seaton (1997) *Power without Responsibility. The Press and Broadcasting in Britain. 5th Edition*. London and New York: Routledge.
- Curran, James (1991) Rethinking the Media as a Public Sphere. In: Peter Dahlgren and Colin Sparks (eds.) *Communication and Citizenship. Journalism and the Public Sphere*. London and New York: Routledge, pp.27-57.
- Dahl, Robert A. (1997) On Deliberative Democracy. Citizen Panels and Medicare Reform. In: *Dissent*. Summer 1997, pp.54-58.
- Dahlgren, Peter (1992) Introduction. In: Peter Dahlgren and Colin Sparks(eds.) *Journalism and Popular Culture*. London, Thousand Oaks, New Delhi: Sage Publications, pp.1-23.
- Dallmayr, Fred (1996) Democracy and Multiculturalism. In: Seyla Benhabib (ed.) *Democracy and Difference. Contesting the Boundaries of the Political*. Princeton, NJ: Princeton University Press, pp.278-294.
- de Lange, William (1998) *A History of Japanese Journalism. Japan's Press Club as the Last Obstacle to a Mature Press*. Japan Library.
- Dennis, Everette E.; Donald M. Gillmor; Theodore L. Glasser(eds.) (1989) *Media Freedom and Accountability*. New York; Westport, Connecticut; London: Greenwood Press.
- d'Entrèves, Maurizio P. (1994) *The Political Philosophy of Hannah Arendt*. London and New York: Routledge.

d'Entrèves, Maurizio Passerin; Seyla Benhabib (1996) *Habermas and the Unfinished Project of Modernity. Critical Essays on the Philosophical Discourse of Modernity*. Cambridge: Polity Press.

デューイ、ジョン (1916=1959) 『民主主義と教育—教育哲学概論— (改定新版)』 帆足理一郎訳、春秋社。(*Democracy and Education: an Introduction to the Philosophy of Education*. New York: Macmillan.)

Dewey, John (1927) *The Public and Its Problems*. Athens: Swallow Press. (『現代政治の基礎 公衆とその諸問題』 阿部斉訳、みすず書房、1969年。)

デューイ、ジョン (1939=1951) 『自由と文化』 細野武男訳、法律文化社。(*Freedom and Culture*. A Minton Balch Book. New York: G.P. Putnam's sons.)

Downing, John (1995) Alternative Media and the Boston Tea Party. In: J.Downing; A. Mohammadi; A. Sreberny-Mohammadi. (eds): *Questioning the Media. A Critical Introduction*. Second Edition, Thousand Oaks, London, New Delhi: Sage Publications, pp.238-252.

Dykers, Carol Reese (1998) Assessing David Merritt's "Public Journalism" Through his Language. In: Edmund B. Lambeth, Philip E.Meyer, and Esther Thorson (eds.)(1998) *Assessing Public Journalism*. Columbia and London: University of Missouri Press, pp. 57-82.

ダイキューゼン、ジョージ (Dykhuizen, George) (1973=1977) 『ジョン・デューイの生涯と思想』 三浦典郎・石田理訳、清水弘文堂。(*The Life and Mind of John Dewey*. Introduction by Harold Taylor; edited by Jo Ann Boydston. Carbondale: Southern Illinois University Press.)

江原由美子 (2000) 『フェミニズムのパラドックス—定着による拡散—』 勁草書房。

Eley, Geoff (1992) Nations, Publics, and Political Cultures: Placing Habermas in the Nineteenth Century. In: Craig Calhoun (ed.) *Habermas and the Public Sphere*. Cambridge, Massachusetts; London, England: The MIT Press, pp.289-339.

Elster, Jon (ed.) (1998) *Deliberative Democracy*. Cambridge, New York, Melbourne: Cambridge University Press.

Engel, Matthew (1996) *Tickle the Public. One Hundred Years of the Popular Press*. London: Indigo.

エンツェンスベルガー、ハンス・マグヌス (1964=1970) 『意識産業』 石黒英男訳、晶文社。(*Bewusstseins-Industrie*. Frankfurt am Main: Suhrkamp.)

Enzensberger, Hans Magnus (1974) *Palaver: Politische Überlegungen (1967-1973)*. Frankfurt am Main: Suhrkamp. (『メディア論のための積木箱』中野孝次・大久保健治訳、河出書房新社、1975年。)

榎原猛 (1996) 『世界のマス・メディア法』嵯峨野書院。

Entman, Robert M. (1989) *Democracy Without Citizens. Media and the Decay of American Politics*. New York and Oxford: Oxford Univ. Press.

Ettema, James S. and Theodore L. Glasser(eds.) (1998) *Custodians of Conscience. Investigative Journalism and Public Virtue*. New York: Columbia University Press.

Eurich, Claus (1983) "Gegen- oder Komplementär-Medien? Zu Gegenstand, Funktion und Ursache 'Alternativer' Kommunikation." In: Otfried Jarren(Hrg.) *Stadtteilzeitung und lokale Kommunikation. 2. Auflage, ergänzt durch ein Nachwort*. München・New York・London・Paris: K.G. Saur, S.13-37.

江刺昭子 (1997) 『女のくせに 草分けの女性新聞記者たち』インパクト出版会。

Flieger, Wolfgang (1992) *Die Taz. Vom Alternativblatt zur linken Tageszeitung*. München: Ölschläger.

Fishkin, James S.(1991) *Democracy and Deliberation*. New Directions for Democratic Reform. New Haven and London: Yale University Press.

Fisk, John (1992) Popularity and the Politics of Information. In: Peter Dahlgren and Colin Sparks(eds.) *Journalism and Popular Culture*. London, Thousand Oaks, New Delhi: Sage Publications, pp.45-63.

Fraser, Nancy (1992) Rethinking the Public Sphere: A Contribution to the Critique of Actually Existing Democracy. In: Craig Calhoun (ed.) *Habermas and the Public Sphere*. Cambridge, Massachusetts; London, England: The MIT Press, pp.109-142.

藤原保信 (1993) 『自由主義の再検討』岩波新書。

藤田博司 (1991) 『アメリカのジャーナリズム』岩波新書。

藤田博司 (1996) 「パブリック・ジャーナリズム ―米報道改革の試みをめぐって―」『コミュニケーション研究』No.27、51-61 頁。

藤田博司 (1997[a]) 「パブリック・ジャーナリズム―メディアの役割をめぐる 1990 年代米国の論争―」『コミュニケーション研究』No.28、33-61 頁。

藤田博司 (1997[b]) 「特集/ザ・シビック・ジャーナリズム : CJ を生んだ背景と問題点」『総合ジャーナリズム研究』No.160、1997 年春季号、4-9 頁。

藤田博司 (2000) 「ジャーナリズムと NPO -改革運動の背景に見る日米の落差-」『コミュニケーション研究』No.30、73-90 頁。

福田敏一 (1977) 『近代民主主義とその展望』岩波新書。

Fullinwider, Robert K. (1999) Introduction. In: R.K.Fullinwider (ed.) *Civil Society, Democracy, and Civic Renewal*. Lanham, Boulder, New York and Oxford: Rowman and Littlefield, pp.1-6.

Garnham, Nicholas (1992) The media and the public sphere. In: Craig Calhoun(ed.) *Habermas and the Public Sphere*. Cambridge. MA: MIT Press, pp.359-376.

Gibian, Peter (ed.) (1997) *Mass Culture and Everyday Life*. New York and London: Routledge.

Gillmore, Donald M.(1998) Who was W.E. Hocking? In: *Communication Law and Policy*, Volume 3, Spring 1998, No.2, pp.231-246.

Gitlin, Todd (1991) Bites and blips: chunk news, savvy talk and the bifurcation of American politics. In: Peter Dahlgren and Colin Sparks (eds.) *Communication and Citizenship. Journalism and the Public Sphere*. London and New York: Routledge, pp.119-136.

Glasser Theodor (1999) The Idea of Public Journalism. In: Theodore Glasser(ed.) *The Idea of Public Journalism*. New York and London: The Guilford Press, pp.3-18.

Goldberg, David Theo (ed.) (1994) *Multiculturalism: A Critical Reader*. Oxford UK and Cambridge USA: Blackwell.

Grimes, Charlotte (1997) Wither the Civic Journalism Bandwagon? In: *The Harvard International Journal of Press/Politics*. Summer 1997, Vol.2, No.3, pp.125-130.

Gripsrud Jostein (1992) The Aesthetics and Politics of Melodrama. In: Peter Dahlgren and Colin Sparks(eds.): *Journalism and Popular Culture*. London, Newbury Park, New Dehli: Sage Publications, pp.84-95.

Gripsrud, Jostein (2000) Tabloidization, Popular Journalism and Democracy. In: John Tulloch, Colin Sparks (eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.285-300.

Gunarantne, Shelton; Mohd. Safar Hasim (1996) Social Responsibility Theory Revisited. A Comparative Study of Public Journalism and Developmental Journalism. In:

Javnost the Public. Journal of The European Institute for Communication and Culture. Vol.III (1996) 3, pp.97-107.

Gutmann, Amy; Charles Taylor et.al. (1992) *Multiculturalism and the "Politics of Recognition": An Essay by Charles Taylor*. Princeton, New Jersey: Princeton University Press.(『マルチカルチュラリズム』佐々木毅・辻康夫・向山恭一訳、岩波書店、1996年。)

Gutmann, Amy and Dennis Thompson (1996) *Democracy and Disagreement*. Cambridge, Ma. and London, England: The Belknap Press of Harvard University Press.

Gulyás, Ágnes (2000) Development of the Tabloid Press in Hungary. In: John Tulloch, Colin Sparks (eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.111-127.

ハーバーマス、ユルゲン (1962=1973) 『公共性の構造転換』細谷貞雄訳、未来社。

ハーバーマス、ユルゲン; ルーマン、ニクラス (1971=1987) 『批判理論と社会システムの理論 -ハーバーマス=ルーマン論争-』佐藤嘉一・山口節郎・藤澤賢一郎訳、木鐸社 (*Theorie der Gesellschaft oder Sozialtechnologie*. Frankfurt am Main: Suhrkamp.)。

ハーバーマス、ユルゲン (1981=1985-87) 『コミュニケーション的行為の理論』上・中・下、平井俊彦、M.フーブリヒト、河合倫逸、徳永恂、脇圭平ほか訳、未来社。(*Theorie des kommunikativen Handelns*. Bd.1-2, Frankfurt am Main: Suhrkamp.)

Habermas, Jürgen (1990) *Strukturwandel der Öffentlichkeit. Untersuchungen zu einer Kategorie der bürgerlichen Gesellschaft. Mit einem Vorwort zur Neuauflage*. Frankfurt am Main: Suhrkamp.

Habermas, Jürgen (1992) *Faktizität und Geltung. Beiträge zur Diskurstheorie des Rechts und des demokratischen Rechtsstaats*. Frankfurt am Main: Suhrkamp.

Habermas, Jürgen (1995) 1989 im Schatten von 1945. Zur Normalität einer künftigen Berliner Republik. In: ders., *Die Normalität einer Berliner Republik. Kleine Politische Schriften VIII*. Frankfurt am Main; Suhrkamp. (「1945年の影の中の1989年 -将来のベルリン共和国の正常性について-」大石紀一郎訳『〈ベルリン〉の総合的研究-学際的地域文化研究による都市の機能分析-』平成6年度～平成8年度科学研究費補助金(一般研究(B))研究成果報告書、1997年、54-67頁。)

Habermas, Jürgen (1996) Three Normative Models of Democracy. In Seyla Benhabib (ed.): *Democracy and Difference. Contesting the Boundaries of the Political*. Princeton, New Jersey: Princeton University Press, pp.21-30.

ハルバースタム, D. (1979=1983) 『メディアの権力』 筑紫哲也・東郷茂彦訳、サイマル出版会。(*The Powers That be*. New York: Dell Publishing.)

Hall, Stuart (1980) Encoding and Decoding in TV-Discourse. In: Stuart Hall et al. (eds.) *Culture, Media, Language: working papers in cultural studies, 1972-79*. London: Hutchinson; [Birmingham, West Midlands]: Centre for Contemporary Cultural Studies, University of Birmingham, pp.128-138.

濱田純一 (1987) 「放送ジャーナリズムと多様性－民間放送導入をめぐる西ドイツの立法と判決から－」 『放送学研究』 37号、日本放送協会放送文化研究所、71-81頁。

濱田純一 (1990) 『メディアの法理』 日本評論社。

濱田純一 (1998) 「マルチメディアと〈情報に対する権利〉」 『マス・コミュニケーション研究』 No.52, 67-75頁。

花田達朗 (1987) 「メディア変動における規範理論と政治経済学的力学－西ドイツの第4次放送判決をめぐって－」 『新聞研究』 No.427、1987年2月、66-72頁。

花田達朗 (1996) 『公共圏という名の社会空間－公共圏・メディア・市民社会－』 木鐸社。

花田達朗 (1998) 「新聞を「学」することの困難と希望」 『新聞研究』 No.558、1998年1月、36-39頁。

花田達朗 (1999[a]) 『メディアと公共圏のポリティクス』 東京大学出版会。

花田達朗 (1999[b]) 「諸外国におけるジャーナリスト教育の経験と日本の課題」 『東京大学社会情報研究所紀要』 No.58、121-152頁。

Hanada, Tatsuro (1999) The Public Sphere and Communication Policy in the U.K. and Japan. Introduction. In: *Review of Media, Information and Society*. Vol.4. Institute of Socio-Information and Communication Studies. The University of Tokyo, pp.1-5.

Hansen, Miriam (1993) "Foreword" In: Oskar Negt and Alexander Kluge. *Public Sphere and Experience. Toward an Analysis of the Bourgeois and Proletarian Public Sphere*. Translated by Peter Labanyi, Jamie Owen Daniel, and Assenka Oksiloff. Minneapolis; London: University of Minnesota Press.

原 寿雄 (編) (2000) 『市民社会とメディア』 リベルタ出版。

Hardt, Hanno (1996) The End of Journalism. Media and Newswriters in the United States. In: *Javnost the Public. Journal of The European Institute for Communication and Culture*. Vol.III (1996) , 3, pp.21-41.

- Hardt, Hanno (1999) Reinventing the Press for the Age of Commercial Appeals: Writings on and about Public Journalism. In: Theodore L.Glasser(ed.) *The Idea of Public Journalism*. New York and London: Guilford Press, pp.197-209.
- Hardt, Hanno (2000) Conflicts of interest: newswriters, media, and patronage journalism. In: Howard Tumber (ed.) *Media Power, Professionals and Politics*. London and New York: Routledge, pp.209-224.
- 春原昭彦 (1987) 『日本新聞通史 1861 年－1986 年』新泉社。
- 長谷川如是閑 (1931) 「ブルジョア・ジャーナリズム論」『現代ジャーナリズムの理論と動向』内外社、1-34 頁。
- 橋爪大三郎 (2000) 「公共性とは何か」『社会学評論』Vol.50, No.4, 451-463 頁。
- 林香里 (1996) 「ローカルラジオの可能性と限界 ―ドイツにおけるもう一つの「ニューメディア」―」『マス・コミュニケーション研究』No.48、160-174 頁。
- 林香里 (1997) 「独のオープンチャンネル―多メディア多チャンネル時代の市民メディア空間」『総合ジャーナリズム研究』No. 159、1997 年冬季号、52-59 頁。
- 林香里 (1998) 「新聞「家庭面」のジャーナリズムと『タブロイダイゼーション』―『大衆』と『オルターナティヴ』が出会ったジャーナリズム空間の変遷―」『東京大学社会情報研究所紀要』No.56、43-87 頁。
- 林香里 (1999[a]) 「「タブロイド化」論争とジャーナリズム」『総合ジャーナリズム研究』1999 年冬季号、No.167、52－57 頁。
- 林香里 (1999[b]) 「「オンナ・コドモ」とジャーナリズム」 東京大学社会情報研究所編『社会情報学 II メディア』東京大学出版会、195-219 頁。
- 林香里 (2000) 「オルターナティヴ公共圏とメディア ―ドイツ・ターゲスツァイトング (taz) の実験に見るジャーナリズムの隘路―」『東京大学社会情報研究所紀要』No.59、51-95 頁。
- Hayashi, Kaori (1999) “Reflections on Japan’s Public Sphere and Journalism from a Historical Perspective.” In: *Review of Media, Information and Society*. ISICS, the University of Tokyo, Vol.4, pp.89-114.
- Hayashi, Kaori (2000) “The ‘Home and Family Section’ in Japanese Newspapers” In: John Tulloch, Colin Sparks(eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.147-162.
- 林利隆 (1993) 「活字メディア」香内三郎・山本武利編 『メディアの現在形』新曜社、60-100

頁。

林利隆 (1998) 「思想としてのジャーナリズム ―その原理的課題についての控えめな覚え書―」『放送学研究』48号、日本放送協会放送文化研究所、201-225 頁。

Heikkilä, Heikki and Risto Kunelius (1996) Public Journalism and its Problems. A Theoretical Perspective. In: *Javnost the Public. Journal of The European Institute for Communication and Culture*. Vol.III (1996) 3, pp.81-95.

Hendriks, Patrick (1999) *Newspapers: A lost Cause? Strategic Management of Newspaper Firms in the United States and the Netherlands*. Dordrecht, the Netherlands: Kluwer Academic Publishers.

土方透・松戸行雄編訳 (1996) 『ルーマン、学問と自身を語る』新泉社。

土方透編 (1990) 『ルーマン/来るべき知』勁草書房。

平井正 (1995) 「ベルリンの大衆文化とアヴァンギャルド文化 ―昨日、今日、明日―」木村直司編『未来都市ベルリン ―ベルリン 2000 年のビジョン―』東洋出版株式会社、145-155 頁。

Hocking, William E (1947, reprint 1972) *Freedom of the Press. A Framework of Principle*. New York: Da Capo Press.

Holland, Patricia (1998) The Politics of the Smile. 'Soft news' and the sexualisation of the popular press. In: Cynthia Carter; Gill Branston and Stuart Allan(eds.) *News, Gender and Power*. London and New York: Routledge, pp.17-32.

Hughes, Frank (1950) *Prejudice and the Press. A Restatement of the Principle of Freedom of the Press with Specific Reference to the Hutchins-Luce Commission*. New York: The Devin-Adair Company Publishers.

Hughes, Helen MacGill (1968) *News and the Human Interest Story*. New York: Greenwood Press.

Huntzicker, William E. (1999) *The Popular Press, 1833-1865*. Westport, Connecticut; London: Greenwood Press.

今吉賢一郎 (1988) 『毎日新聞の源流 江戸から明治 情報革命を読む』毎日新聞社。

Isaacs, Norman E.(1986) *Untended Gates. The Mismanaged Press*. New York: Columbia University Press.

石川明 (1970) 「西ドイツにおける新聞の集中化と公共放送の理念」『NHK 放送文化研究

年報 15』、1-15 頁。

石川明 (1979)「放送における多元性 ―北ドイツ放送法の改正問題を中心に―」『NHK 放送文化研究年報 24』、88-135頁。

伊藤千尋 (2001)『たたかう新聞「ハンギョレ」の 12 年』岩波ブックレット。

伊藤るり (1993)「新しい社会運動論の諸相と運動の現在」山之内靖他編『システムと生活世界』岩波講座 社会学の方法 VIII、121-157 頁。

岩崎千恵子 (1996)「家庭面は変わったか」田中和子・諸橋泰樹 編著『ジェンダーからみた新聞のうら・おもて[新聞女性学入門]』現代書館、107-130 頁。

Jackson, William E. (1997) Save Democracy from Civic Journalism. North Carolina's Odd Experiment. In: *The Harvard International Journal of Press/Politics*. Summer 1997, Vol.2, No.3, pp.102-117.

Janeway, Michael (1999) *Republic of Denial. Press, Politics, and Public Life*. New Haven and London: Yale University Press.

女性ジャーナリスト・ペン検証と研究の会 (1996)『女性記者の記事にみる戦後 50 年 ―参政権から北京会議まで―』1996 年 3 月 25 日発行。

影山三郎 (1967)「「婦人・家庭欄」編集論」『新聞研究』1967 年 2 月号、12-16 頁。

影山三郎 (1976)『読者の言論、歴史と展望 増補版《新聞投書論》』現代ジャーナリズム出版会。

金森トシエ (1984)『女の社会学 男の家庭学』新潮社。

加藤春恵子 (1992)「女性の視点・人権の視点」加藤春恵子・津金澤聰廣編『女性とメディア』世界思想社、3-22 頁。

勝田守一・国分一太郎・鶴見俊輔・久野収 (1972)「生活綴方運動の思想性―日本の教育の誇るもの―」『思想史の周辺』人文書院。

川嶋保良 (1996)『婦人・家庭欄こと始め』青蛙房。

桂敬一 (1991)『現代の新聞』、岩波新書。

桂敬一 (1995)『日本の情報化とジャーナリズム』日本評論社。

Keane, John (1991) *The Media and Democracy*, Cambridge: Polity Press.

Keane, John (1998) *Civil Society. Old Images, New Visions*. Cambridge: Polity Press.

木村涼子 (1992) 「婦人雑誌の情報空間と女性大衆読者層の成立－近代日本における主婦役割の形成との関連で－」『思想』No. 812、1992年2月、231-252頁。

Kirwel, Thomas (1996) *Ausländerfeindlichkeit in der deutschen Presse. Untersucht an "Bild", "FAZ", "taz" und der "Deutschen National-Zeitung"*. Hamburg: Kovac.

近代女性文化史研究会 (1989) 『婦人雑誌の夜明け』大空社。

近代女性文化史研究会 (1996) 『大正期の女性雑誌』大空社。

北村節子・福士千恵子 (1996) 「家庭面の役割と担当記者の役割意識」田中和子・諸橋泰樹 編著『ジェンダーからみた新聞のうら・おもて [新聞女性学入門]』現代書館、263-281頁。

クニール、ゲオルク; アルミン・ナセヒ (1993=1995) 『ルーマン 社会システム理論』館野受男、池田貞夫、野崎和義訳、新泉社。(Niklas Luhmanns theorie Sozialer Systeme. München: Wilhelm Fink Verlag.)

Knodt, Eva M. (1995) Foreword. In: N.Luhmann, *Social Systems*. Engl.translation. by John Bednarz Jr. with Dirk Baecker. Stanford, Calif.: Stanford Univ. Press.

小玉美意子 (1991) 『新版 ジャーナリズムの女性観』学文社。

コッパ、ゲルト・G. (1999) 「デジタル化時代における公共放送の将来的選択肢」林 香里訳、『放送学研究』No.48、日本放送協会放送文化研究所、41-86頁。

香内三郎 (1976) 『言論の自由の源流－ミルトン『アレオパジティカ』周辺－』平凡社。

香内三郎 (1982) 『活字文化の誕生』晶文社。

香内三郎 (1994) 「日本ジャーナリズムの構造転換－メディア理論と〈物語〉の貧困化－」『窓 21』秋号、166-182頁。

児島和人・宮崎寿子 (1998) 『表現する市民たち－地域からの映像発信－』NHK ブックス。

Kozinski, Alex(1998) How I Stopped Worrying and Learned to Love the Press. In: *Communication Law and Policy*. Volume 3, Spring 1998, No.2, pp.142-163.

クサカス、チャンドラン; フィリップ・ペティット (1990=1996) 『ロールズ－『正義論』とその批判者たち』山田八千子・嶋津格訳、勁草書房。(Rawls. *A Theory of Justice and its Critics*. Cambridge: Polity.)

久野収・鶴見俊輔（1956）『現代日本の思想 ―その五つの渦―』岩波新書。

Kurtz, Howard (1993) Yesterday's News: Why Newspapers Are Losing Their Franchise. In: *Reinventing the Newspaper. Essays by Frank Denton and Howard Kurtz*. A Twentieth Century Fund Paper, pp.61-112.

Lambeth, Edmund B.(1986) *Committed Journalism. An Ethic for the Profession*. Bloomington: Indiana.

Lambeth, Edmund B.; Philip E. Meyer and Esther Thorson (eds.)(1998) *Assessing Public Journalism*. Columbia and London: University of Missouri Press.

Langer, John (1998) *Tabloid Television. Popular Journalism and the 'Other News'*. London and New York: Routledge.

Lichtenberg, Judith (1999) Beyond the Public Journalism Controversy. In: Robert K. Fullinwider(ed.) *Civil Society, Democracy, and Civic Renewal*. Lanham, Boulder, New York and Oxford: Rowman and Littlefield, pp.341-354.

Lichtenberg, Judith (2000) In Defense of Objectivity Revisited. In: James Curran and Michael Gurevitch (eds.) *Mass Media and Society*. Third Edition. London: Arnold, pp.238-254.

Lippmann, Walter (1922) *Public Opinion*. New York : Macmillan. (『世論（上・下）』掛川トミ子訳、岩波文庫。)

Lippmann, Walter (1927, reprint 1993) *The Phantom Public*. With a New Introduction by W.M.McClay. New Brunswick and London: Transaction Publishers.

Lippmann, Walter (1955) *Public Philosophy*. Boston and Tronto: Little Brown and Company.

Lottes, Günther (1979) *Politische Aufklärung und plebejisches Publikum. Zur Theorie und Praxis der englischen Radikalismus im späten 18.Jahrhundert*. München, Wien: R.Oldenbourg Verlag

Luhmann, Niklas (1996) *Die Realität der Massenmedien*. Opladen: Westdeutscher Verlag.

Luhmann, Niklas (1998) *Die Gesellschaft der Gesellschaft* 1, 2. Frankfurt am Main: Suhrkamp Taschenbuch.

Luhmann, Niklas (1990) Gesellschaftliche Komplexität und öffentliche Meinung. In:

- ders. *Soziologische Aufklärung 5. Konstruktivistische Perspektiven*. Opladen. Westdeutscher Verlag, pp170-182.
- Luhmann, Niklas (1981) *Soziologische Aufklärung 3. Soziales System, Gesellschaft, Organisation*. Opladen: Westdeutscher Verlag.
- Luhmann, Niklas (1984) *Soziale Systeme: Grundriß einer allgemeinen Theorie*. Frankfurt am Main: Suhrkamp. (『社会システム理論』上(1993)、下(1995)、佐藤勉監訳、恒星社厚生閣。)
- Luhmann, Niklas (1990) The Paradox of System Differentiation and the Evolution of Society. In: Jeffery C.Alexander and Paul Colomy (eds.) *Differentiation Theory and Social Change. Comparative and Historical Perspectives*. New York: Columbia University Press.
- ルーマン、ニクラス (1986=1987) 『エコロジーの社会理論—現代社会はエコロジーの危機に対応できるか?』土方昭訳、新泉社。(*Ökologische Kommunikation*. Opladen: Westdeutscher Verlag.)
- ルーマン、ニクラス (1981=1985) 『社会システム理論の視座—その歴史的背景と現代的展開』佐藤勉訳、木鐸社。(*Wie ist soziale Ordnung möglich? In: Gesellschaftsstruktur und Semantik*. Bd.2. Frankfurt am Main: Suhrkamp, S.195-285.)
- ルーマン、ニクラス (1990=1996) 『自己言及性について』土方透、大澤善信訳、国文社。(*Essays on Self-Reference*. New York: Columbia University Press.)
- Lummis, C.Douglas (1996) *Radical Democracy*. Ithaca, NY: Cornell University Press. (『ラディカル・デモクラシー：可能性の政治学』加地永都子訳、岩波書店、1998年。)
- Macdonald, Myra (1998[a]) Politicizing the Personal. Women's voices in British television documentaries. In: Cynthia Carter, Gill Branston and Stuart Allan (eds.): *News, Gender and Power*. London and New York: Routledge, pp.105-120.
- Macdonald, Myra (1998[b]) Personalization in Current Affairs Journalism, In: *Javnost the Public*. Vol.V, No.3 The Journal of the European Institute for Communication and Culture, pp 109-126.
- MacDonald, Myra (2000) Rethinking Personalization in Current Affairs Journalism. In: John Tulloch, Colin Sparks (eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.251-266.
- Macedo, Stephen(ed.) (1999) *Deliberative Politics. Essays on Democracy and Disagreement*. New York, Oxford: Oxford University Press.

マッキンタイア、アラスデア (1984=1993) 『美徳なき時代』篠崎榮訳、みすず書房。(*After Virtue. A Study in Moral Theory*. Second Edition. Notre Dame: Univ. of Notre Dame Press.)

毎日新聞社 (1997) 『毎日新聞 Now 個性派宣言 TOKYO データ '95-'96』。

マルクス、カール (1895=1953) 『経済学批判』杉本俊朗訳、国民文庫。

前田康博 (1969) 「民主主義の問題」『社会の哲学』岩波講座 哲学 5、岩波書店、161-203 頁。

Mansbridge, Jane (1996) Using Power/Fighting Power: The Polity. In Seyla Benhabib (ed.): *Democracy and Difference. Contesting the Boundaries of the Political*. Princeton, New Jersey: Princeton University Press, pp46-66.

Mansbridge, Jane (1999) Everyday Talk in the Deliberative System. In: Macedo, Stephen(ed.) *Deliberative Politics. Essays on Democracy and Disagreement*. New York, Oxford: Oxford University Press, pp.211-239.

Marcinkowski, Frank (1993) *Publizistik als Autopoietisches System. Politik und Massenmedien. Eine Systemtheoretische Analyse*. Opladen: Westdeutscher Verlag.

McIntyre, Jerilyn S. (1987) Repositing a Landmark: The Hutchins Commission and Freedom of the Press. In: *Critical Studies in Mass Communication*. Volume 4, No.2, June 1987, pp.136-160.

McLuhan, Marshall (1964, reprint1994=1987) *Understanding Media. The Extension of Man*. With a new introduction by Lewis H.Lapham. Cambridge, Massachusetts and London, England. The MIT Press. (『メディア論: 人間の拡張の諸相』 栗原裕, 河本仲聖訳、みすず書房。)

McNair, Brian (1995) *An Introduction to Political Communication*. London and New York: Routledge.

McNair, Brian (1999) *News and Journalism in the UK. A Textbook*. 3rd Edition. London and New York: Routledge.

McNair, Brian (2000) *Journalism and Democracy. An Evaluation of the Political Public Sphere*. London and New York: Routledge.

McQuail, Denis(1997) Accountability of Media to Society. Principles and Means. In: *European Journal of Communication*. Vol.12(4), pp.511-529.

メルッチ、アルベルト (1995)「新しい社会運動と個人の変容」『思想』1995年8月号、No.849。(インタビュー、聞き手: 山之内靖、矢澤修次郎) 岩波書店、4-37頁。

Melucci, Alberto (1996) *Challenging Codes. Collective Action in the Information Age*. Cambridge: Cambridge University Press.

メルッチ、アルベルト (1989=1997)『現代に生きる遊牧民^{ノマド} —新しい公共空間の創出に向けて』山之内靖・貴堂嘉之・宮崎かすみ訳、岩波書店。(Nomads of the Present. Social Movements and Individual Needs in Contemporary Society. edited by John Keane and Paul Mier. London : Hutchinson Radius.)

Merritt, Davis (1995) *Public Journalism and Public Life: Why Telling the News Is Not Enough*. Hillsdale, NJ: Erlbaum.

Merritt, Davis and Jay Rosen (1998) Imagining Public Journalism. An Editor and Scholar Reflect on the Birth of an Idea. In: Edmund Lambeth et. al. (eds.) *Assessing Public Journalism*. Columbia and London. University of Missouri Press, pp.36-56.

Merten, Klaus; Siegfried J. Schmidt, Siegfried Weischenberg(Hrsg.) (1994) *Die Wirklichkeit der Medien. Eine Einführung in die Kommunikationswissenschaft*. Opladen: Westdeutscher Verlag.

Miller, Edward D (1994) *The Charlotte Project. Helping citizens take back democracy*. The Poynter Papers: No.4. St. Petersburg, Florida: The Poynter Institute for Media Studies.

Miller, Toby and Alec McHoul (eds.) (1998) *Popular Culture and Everyday Life*. London, Thousand Oaks, New Delhi: Sage Publications.

Mindich, David T.Z.(1998) *Just the Facts. How "Objectivity" Came to Define American Journalism*. New York and London: New York University Press.

三森八重子 (1997)「特集/ザ・シビック・ジャーナリズム: 米・現地取材=試行錯誤のメディアとCJ」『総合ジャーナリズム研究』No. 160、1997年春季号、10-18頁。

三浦友和 (1999)『被写体』マガジンハウス。

水野剛也 (1997)「読者との対話通して問題解決目指す —アメリカのシビック・ジャーナリズム運動」『新聞研究』No.549、1997年4月、52-55頁。

門奈直樹 (1983)『民衆ジャーナリズムの歴史—自由民権から占領下沖縄まで—』三一書房。

門奈直樹 (1993)『ジャーナリズムの現在』日本評論社。

- Morris-Suzuki, Tessa (1988) *Re-Inventing Japan-Time, Space, Nation*. Armonk, New York: An East Gate Book, M.E. Sharpe, Inc.
- Morris-Suzuki, Tessa (2000) Anti-Area Studies. In: *Communal Plural. Journal of Transitional & Crosscultural Studies*. Vol. 8. No. 1. April 2000, pp.9-23.
- モース、ロナルド・A (Ronald A. Morse) (1999) 『インターネットで学ぶアメリカ政治の基礎知識』麗澤大学出版会。
- Mosco, Vincent (1996) *The Political Economy of Communication. Rethinking and Renewal*. London, Thousand Oaks, New Delhi: Sage Publications.
- Mouffe, Chantal(ed.) (1992) *Dimensions of Radical Democracy. Pluralism, Citizenship, Community*. London, New York: Verso.
- Mouffe, Chantal (1993) *The Return of the Political*. London, New York: Verso. (『政治的なものの再興』千葉眞・土井美德・田中智彦・山田竜作訳、日本経済評論社、1998年。)
- Mouffe, Chantal (1996) Radical Democracy or Liberal Democracy? In: David Trend(ed.) *Radical Democracy. Identity, Citizenship, and the State*. New York and London. Routledge, pp.19-26. (『ラディカル・デモクラシー:アイデンティティ、シティズンシップ・国家』佐藤正志他訳、三嶺書房、1998年。)
- Mulhall, Stephen and Adam Swift (1992) *Liberals and Communitarians*. Oxford UK and Cambridge USA: Blackwell.
- 村上直之 (1995) 『近代ジャーナリズムの誕生ーイギリス犯罪報道の社会史からー』岩波書店。
- 村松泰子、ヒラリア・ゴスマン編 (1998) 『メディアがつくるジェンダーー日独の男女・家族像を読みとく Das Geschlecht als Konstrukt der Medienー』新曜社。
- 村中知子 (1996) 『ルーマン理論の可能性』恒星社厚生閣。
- 牟田和恵 (1996) 『戦略としての家族ー近代日本の国民国家形成と女性ー』新曜社。
- 仲井文武 (1986) 『緑の党ーその実験と展望ー』岩波書店。
- 仲井文武 (1994) 『現代ドイツの試練』岩波書店。
- 中野収 (1986) 「ジャーナリズムの衰退ー観客化とスキャンダルリズムー」『新聞学評論』No.35、184-192頁。

中仙道忠春(1999)「新規参入阻む壁に挑戦ー『フロンティアタイムス』奮闘記ー」『総合ジャーナリズム研究』No.170、1999年秋季号、44-49頁。

中内敏夫 (1970)『生活綴方成立史研究』明治図書出版。

Negt, Oskar and Alexander Kluge (1972) *Öffentlichkeit und Erfahrung: Zur Organisationsanalyse von bürgerlicher und proletarischer Öffentlichkeit*. Frankfurt am Main: Suhrkamp Verlag (English Translation: (1993) *Public Sphere and Experience. Toward an Analysis of the Bourgeois and Proletarian Public Sphere*. Translated by Peter Labanyi, Jamie Owen Daniel, and Assenka Oksiloff. Minneapolis; London: University of Minnesota Press.)

Negt, Oskar (1996) Gegenöffentlichkeit und Erfahrung. Über die Krisis in der Arbeitsweise linker Medien heute. In: R. Maresch (Hrsg.) *Medien und Öffentlichkeit. Positionierungen Symptome Simulationsbrüche*. München: Klaus Boer Verlag, pp.33-40.

新島繁 (1950)『ジャーナリズム』ナウカ社。

西川祐子 (1990)「住まいの変遷と「家庭」の成立」『日本女性生活史 4 近代』東京大学出版会、1-49頁。

Noelle-Neumann, Elisabeth (1980) *Die Schweigesprache. Öffentliche Meinung—Unsere soziale Haut*. München. (『沈黙の螺旋理論：世論形成過程の社会心理学』、池田謙一、安野智子訳、ブレーン出版、1997年。)

Nordenstreng, Kaarle (1998) Hutchins Goes Global. In: *Communication Law and Policy, Volume 3*, Spring 1998, No.3, pp.419-438.

オッフエ、クラウス (1987=1988)『後期資本制社会システムー資本制的民主制の諸制度』寿福真美訳、法政大学出版局。

岡田直之 (2001)『世論の政治社会学』東京大学出版会。

興津要 (1997)『明治新聞事始めー[文明開化]のジャーナリズム』大修館書店。

奥野満里子 (1999)『シジウィックと現代功利主義』勁草書房。

奥田暁子編著 (1986)『女たちは書いてきたー「ひととき」に見る現代女性史ー』径書房。

小野秀雄 (1977)『増補 新聞の歴史』東京堂出版。

小野秀雄 (1978)『内外新聞史』日本新聞協会。

小野秀雄 (1982) 『日本新聞発達史』 五月書房。

大井眞二 (1999) 「メディアの自由の歴史－英米の理論の系譜」『新版 ジャーナリズムを学ぶ人のために』 世界思想社、20-39 頁。

Page, Benjamin I.(1996) *Who Deliberates? Mass Media in Modern Democracy*. Chicago and London: The University of Chicago Press.

Peck, Janice (2000) Literacy, Seriousness and the Oprah Winfrey Book Club. In: John Tulloch, Colin Sparks (eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.229-250.

Peters, John Durham (1999) Public Journalism and Democratic Theory: Four Challenges. In: Theodore L.Glasser (ed.) *The Idea of Public Journalism*. New York and London: Guilford Press, pp.99-117.

Putnam, Robert D.(1995) Bowling Alone: America's Declining Social Capital. In: *Journal of Democracy*. Vol.6, No.1, January 1995, pp.65-78.

Rasmussen, David (1995) *Universalism vs. Communitarianism. Contemporary Debates in Ethics*. Cambridge Mass.and London: The MIT Press. (『普遍主義 対 共同体主義』 菊池理夫・山口晃・有賀誠訳、日本経済評論社、1999 年。)

Rawls, John (1972) *A Theory of Justice*. Oxford and New York. Oxford University Press. (『正義論』 矢島鈞次・篠塚慎吾・渡部茂訳、紀伊國屋書店、1979 年。)

Robbins, Bruce(ed.) (1993) *The Phantom Public Sphere*. Minneapolis and London: University of Minnesota Press.

Rooney, Dick (2000) Thirty Years of Competition in the British Tabloid Press: The Mirror and the Sun 1968-1998. In: John Tulloch, Colin Sparks (eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.91-109.

Rosen, Jay (1996) *Getting the Connections Right. Public Journalism and the Troubles in the Press*. New York: The Twentieth Century Fund Press.

Rosen, Jay (1999[a]) *What Are Journalists For?* New Haven and London: Yale University Press.

Rosen, Jay (1999[b]) The Action of the Idea: Public Journalism in Built Form. In: Theodore Glasser(ed.) *The Idea of Public Journalism*. New York and London: The Guilford Press, pp.21-48.

Rosen, Jay et. al. (2000) Public Journalism Debate. In: *Journalism Studies*, Vol. 1, No.4, pp.679-694.

- Rucht, Dieter (1994) *Modernisierung und neue soziale Bewegung. Deutschland, Frankreich und USA im Vergleich*. Frankfurt am Main, New York: Campus Verlag.
- Rucht, Dieter(1994[a]) Öffentlichkeit als Mobilisierungsfaktor für soziale Bewegungen. In: Friedhelm Neidhardt(Hrsg.) *Öffentlichkeit, öffentliche Meinung, soziale Bewegungen*. Opladen: Westdeutscher Verlag, S.337-358.
- 佐伯啓思 (1995) 「自己組織性とポスト・モダン」 吉田民人, 鈴木正仁 (編著) 『自己組織性とはなにか : 21 世紀の学問論にむけて』 ミネルヴァ書房、133-154 頁。
- 斉藤純一 (2000) 『公共性』 岩波書店。
- Sandel, Michael J. (1998) *Liberalism and the Limits of Justice*, Second Edition. Cambridge, New York, Melbourne: Cambridge University Press. (『自由主義と正義の限界』 菊池理夫訳、三嶺書房、1999 年。)
- 産経新聞社 (1997) 『Media Profile of the Sankei Shimbun』。
- 佐々井秀緒 (1981) 『生活綴方生成史』 あゆみ出版。
- 佐々木毅 (1984) 『現代アメリカの保守主義』 岩波書店。
- 佐藤バーバラ (1998) 「「総合化された」雑誌におけるジェンダーの表象 — 『太陽』『家庭欄』をめぐる」 『日本研究 第 17 集』 国際日本文化研究センター、1998 年 2 月、273-283 頁。
- 佐藤学 (2000) 「公共圏の政治学 — 両大戦間のデューイー」 『思想』 No.907、2000 年 1 月、18-40 頁。
- 佐藤朝子 「家庭面と共に過ごして」 『新聞研究』 No.368、1982 年 3 月、46-49 頁。
- 佐藤洋子 (1996) 「家庭面の歴史と女性の記者」 田中和子・諸橋泰樹 編著 『ジェンダーからみた新聞のうら・おもて [新聞女性学入門]』 現代書館、245-262 頁。
- Schönbach, Klaus (2000) Does Tabloidization make German Local Newspapers Successful? In: John Tulloch, Colin Sparks (eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.63-74.
- Scholl, Armin, Siegfried Weischenberg (1998) *Journalismus in der Gesellschaft. Theorie, Methodologie und Empirie*. Opladen: Westdeutscher Verlag.
- Schmalz-Bruns, Rainer (1995) *Reflexive Demokratie. Die demokratische Transformation moderner Politik*. Baden-Baden: Nomos Verlagsgesellschaft.

Schmidt, Siegrfried J. (1994) Die Wirklichkeit des Beobachters. In: K.Merten, S.J.Schmidt, S. Weischenberg (Hrsg.) *Die Wirklichkeit der Medien. Eine Einführung in die Kommunikationswissenschaft*. Opladen: Westdeutscher Verlag, S.3-19.

Schramm, Wilbur (ed.) (1960) *Mass Communications. A Book of Readings*. Second Edition. Urbana : University of Illinois Press. (『マス・コミュニケーション・マス・メディアの総合的研究』、学習院大学社会学研究室訳、東京創元社、1968 年。)

シュッドソン、マイケル (1991=1995) 「ニュージャーナリズム」デヴィッド・クローリ、ポール・ヘイヤー編『歴史のなかのコミュニケーションーメディア革命の社会文化史』林進・大久保公雄訳、新曜社、174-189 頁。(David Crowley and Paul Heyer, *Communication in History. Technology, Culture, Society*. New York: Longman Publishing Group.)

Schudson, Michael (1998) *The Good Citizen. A History of American Civic Life*. Cambridge, Massachusetts and London, England: Harvard University Press.

Schudson, Michael (1999) What Public Journalism Knows about Journalism but Doesn't Know about 'Public'. In: Theodore L.Glasser(ed.) *The Idea of Public Journalism*. New York and London: Guilford Press, pp. 118-133.

Schulz, Tanjev (2000) Mass Media and the concept of interactivity: an exploratory study of online forums and reader email. In: *Meida, Culture and Society*. Vol.22, pp.205-221.

Sen, Amartya; Bernard Williams (eds.) (1982) *Utilitarianism and Beyond*. Paris: Maison des Sciences de l'Homme and Cambridge University Press.

柴山哲也 (1997) 『日本型メディア・システムの崩壊ー21 世紀ジャーナリズムの進化論ー』、柏書房。

『新聞研究』特集「“家庭・婦人面” 考」『新聞研究』No.305、1976 年 12 月、45-48 頁。

『新聞研究』特集「家庭・生活面の現状と展望」『新聞研究』No.376、1982 年 11 月、44-65 頁。

『新聞研究』特集「生活・家庭面の広がり」『新聞研究』No.401、1984 年 12 月、10-50 頁。

『新聞研究』特集「生活情報と新聞」『新聞研究』No.471、1990 年 10 月、10-36 頁。

『新聞研究』特集「「生活」視点のジャーナリズム」『新聞研究』No.508、1993 年 11 月、10-56 頁。

清水幾太郎 (1992、初出 1948) 「ジャーナリズム」『清水幾太郎著作集』9、講談社、189-312 頁。

清水太郎 (1997) 「ルーマンの社会システム論」 岩波講座『現代社会学・別巻 現代社会学の理論と方法』 岩波書店、185-200 頁。

白鳥邦夫 (1961) 『無名の日本人』 未来社。

思想の科学研究会 鶴見和子編集 (1953) 『デューイ研究—アメリカ的思考方の批判—』、春秋社。

思想の科学研究会編 (1949) 『思想の科学 —特集・生活綴方—』 1949 年 8 月、講談社。

庄司興吉 (1999) 『地球社会と市民連携 —激成期の国際社会学へ—』 有斐閣。

Siebert, Fred; Theodore B. Peterson, Wilbur Schramm (1956) *Four Theories of the Press*. University of Illinois Press. (『マス・コミの自由に関する四理論』 内川芳美訳、東京創元社、1959 年。)

Sloan, W.David (1991) *Perspectives on Mass Communication History*. Hillsdale New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.

Sontheimer, Michael, im Gespräch mit Rudolf Maresch(1996) In der selbstreferentiellen Medienwelt den Kontakt zur Szene verloren. In: R. Maresch (Hrsg.) *Medien und Öffentlichkeit. Positionierungen Symptome Simulationsbrüche*. München: Klaus Boer Verlag, pp.211-227.

Sparks, Colin (1991) Goodbye, Hildy Johnson: the vanishing 'serious press'. In: Peter Dahlgren and Colin Sparks (eds.) *Communication and Citizenship, Journalism and the Public Sphere in the New Media Age*. London and New York: Routledge, pp. 58-74.

Sparks, Colin (1992 [a]) Popular Journalism: Theories and Practice. In: Peter Dahlgren and Colin Sparks(eds.) *Journalism and Popular Culture*. London, Thousand Oaks, New Delhi: Sage Publications, pp.24-44.

Sparks, Colin (1992 [b]) : 'The Popular Press and Political Democracy', In: P. Scannel, P. Schlesinger and C. Sparks(eds) *Culture and Power. A Media, Culture and Society Reader*. London·Newbury Park·New Dehli: Sage Publications, pp. 278-292.

Sparks, Colin (2000) Introduction: The Panic over Tabloid News. In: John Tulloch, Colin Sparks (eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.1-40.

Splichal, Slavko (1999) *Public Opinion. Developments and Controversies in the Twentieth Century*. Lanham, Boulder, New York and Oxford: Rowman and Littlefield.

Stamm, Karl-Heinz (1988) *Alternative Öffentlichkeit. Die Erfahrungsproduktion neuer*

sozialer Bewegungen. Frankfurt am Main, New York: Campus Verlag.

Steele, Robert M. (1997) The Ethics of Civic Journalism: Independence As the Guide. In. Jay Black (ed.) *Mixed News. The Public/Civic/Communitarian Journalism Debate*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, pp.162-175.

Street, John (1997) *Politics and Popular Culture*. Cambridge: Polity Press.

杉山光信 (1999) 「世論 — 2つの事例による世論再考—」『社会情報学 II メディア』東京大学出版会、3-23 頁。

杉山光信 (2000) 『アラン・トゥレーヌ —現代社会のゆくえと新しい社会運動—』東信堂。

Sullivan, William M. (1999) Making Civil Society Work. Democracy as a Problem of Civic Cooperation. In: R. Fullinwider (ed.) *Civil Society, Democracy, and Civic Renewal*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman & Littlefield, pp. 31-50.

鈴木健二 (1995) 『戦争と新聞』、毎日新聞社。

鈴木健二 (1997) 『ナショナリズムとメディア—日本近代化過程における新聞の功罪』岩波書店。

田島泰彦 (1993) 「コミュニケーション倫理をめぐる国際的動向 —メディア倫理・責任システムの研究と展開を中心に—」『マス・コミュニケーション研究』No.42、59-79頁。

田島泰彦・右崎正博・服部孝章 (1998) 『現代メディアと法』三省堂。

田中和子・諸橋泰樹 編著 (1996) 『ジェンダーからみた新聞のうら・おもて [新聞女性学入門]』現代書館。

高橋徹 (編) (1960) 『世論』有斐閣。

高橋徹 (1985) 「後期資本主義社会における新しい社会運動」『思想』No.737、1985 年 11 月、2-14 頁。

高橋 徹 (1987) 『現代アメリカ知識人論 —文化社会学のために—』新泉社。

高橋修 (1997) 「作文教育のディスクロー 〈日常〉の発見と写生文」小森陽一・紅野謙介・高橋修編『メディア・表象・イデオロギー —明治三十年代の文化研究』小沢書店。

高島善哉 (1964) 『社会科学入門 —新しい国民の見方考え方—』岩波新書。

高田昭彦 (1985) 「草の根運動の現代的位相 —オールタナティヴを志向する新しい社会運動—」『思想』No.737、1985 年 11 月、176-199 頁。

Taylor, Charles (1989) *Sources of the Self. The Making of the Modern Identity*. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press. (『』)

Taylor, Charles (1994) Multiculturalism and the “Politics of Recognition”. In: Gutmann, Amy(ed.) *Multiculturalism. Examining the Politics of Recognition. An Essay by Charles Taylor*. Princeton, New Jersey: Princeton University Press, pp.25-73. (『マルチカルチュラリズム』佐々木毅・辻康夫・向山恭一訳、岩波書店、1996年。)

Taylor, S.J. (1996) *The Great Outsiders. Northcliffe, Rothermere and the Daily Mail*. London: Weidenfeld & Nicolson.

The Commission on Freedom of Press(The Hutchins Commission) (1947) *A Free and Responsible Press: A General Report on Mass Communication: Newspapers, Radio, Motion Pictures, Magazines, and Books*. Chicago : University of Chicago Press.(『新聞の自由と責任：新聞、ラジオ、映画、雑誌など大衆通信機関に関する一般報告書』米國プレス自由委員会著；日本新聞協会翻訳。日本新聞協会、1948年。)

Tocqueville, Alexis de (1898) *Democracy in America*. (Translation by Henry Reeve, as revised and annotated from the author's last edition by Francis Bowen.) Vol.II. New York: The Century Co. (『アメリカの民主主義』下、井伊玄太郎訳、講談社学術文庫、1987年。)

戸田金一・太郎良信・大島光子（編著） 成田忠久（監修）（1999）『手紙で綴る北方教育の歴史』教育史料出版会。

戸坂潤（1966、初出 1934）「新聞現象の分析ーイデオロギー論による計画図ー」『戸坂潤全集』第三巻、勁草書房、118-144 頁。

Trend, David (ed.) (1996) *Radical Democracy. Identity, Citizenship, and the State*. New York and London. Routledge.(『ラディカル・デモクラシー:アイデンティティ、シティズンシップ・国家』佐藤正志他訳、三嶺書房、1998年。)

坪郷實（1989）『新しい社会運動と緑の党 ー福祉国家のゆらぎの中でー』九州大学出版会。

土屋礼子（1995）『大阪の錦絵新聞』三元社。

土屋礼子（1997）「『いろは新聞』にみる自由民権運動期の小新聞」『メディア史研究』、1997年5月号、Vol. 6、1-21 頁。

津金澤聰廣（1998）『現代日本メディア史の研究』ミネルヴァ書房。

辻内鏡人（1994）「多文化主義の思想的文脈 ー現代アメリカの政治文化ー」『思想』No.843、1994年9月、岩波書店、43-66 頁。

- 筑紫哲也 (2000) 「自我作古ーマスコミ批判を映し出す鏡」『週刊金曜日』318 号、6 月 9 日、60 頁。
- 鶴木 眞 (編著) (1999) 『客観報道ーもうひとつのジャーナリズム論ー』成文堂。
- 鶴見和子 (1952) 「デューイの生涯と活動」思想の科学研究会 鶴見和子編集『デューイ研究ーアメリカ的思考の批判ー』春秋社。
- 鶴見和子 (1963) 『デューイ・こらいどすこおぷ』未来社。
- 鶴見和子 (1963) 『生活記録運動のなかで』未来社。
- 鶴見和子 (1997) 「生活記録運動」『女書生』はる書房、96-122 頁。
- Tucher, Andie(1998) The Hutchins Commission, Half a Century On – I. Out of the past, a moral language for our own time. In: *Media Studies Journal*. Spring/Summer 1998, pp.48-55.
- Tulloch, John (2000) The Eternal Recurrence of New Journalism. In: John Tulloch, Colin Sparks (eds.) *Tabloid Tales. Global Debates over Media Standards*. Lanham, Boulder, New York, Oxford: Rowman and Littlefield, pp.131-146.
- 内川芳美 (1989) 『マス・メディア法政策史研究』有斐閣。
- 内川芳美 (1995) 「新聞の自由の歴史」『新聞学 第3版』日本評論社、48-65 頁。
- 上野千鶴子 (1990) 『家父長制と資本制 マルクス主義フェミニズムの地平』岩波書店。
- 上野千鶴子 (1995) 「差異の政治学」井上俊・上野千鶴子他編『シリーズ現代社会学 11 ジェンダーの社会学』岩波書店。
- van Zoonen, Liesbet (1998[a]) One of the girls?: The changing gender of journalism. In: Cynthia Carter; Gill Branston and Stuart Allan(eds.) *News, Gender and Power*. London and New York: Routledge, pp.33-46.
- van Zoonen, Lisbet (1998[b]) A day at the zoo: political communication, pigs and popular culture. In: *Media, Culture & Society*. Vol.20. No. 2, April 1998, pp.183-200.
- van Zoonen, Liesbet (1998[c]) Making Private Life Public. In: Kees Brants, Joke Hermes and Liesbet van Zoonen (eds.) *The Media in Question. Popular Cultures and Public Interests*. London, Thousand Oaks, New Delhi: Sage Publications, pp.113-123.
- 渡辺潤 (1977) 「社会運動とジャーナリズム」田村紀雄編著『ジャーナリズムの社会学』

ブレーン出版、127-164 頁。

Wolin, Sheldon (1992) What Revolutionary Action Means Today. In: Chantal Mouffe (ed.) *Dimensions of Radical Democracy. Pluralism, Citizenship, Community*. London and New York: Verso, pp.240-253.

Wolin, Sheldon (1996) Fugitive Democracy. In: Seyla Benhabib (ed.) *Democracy and Difference. Contesting the Boundaries of the Political*. Princeton, NJ: Princeton University Press, pp.31-45.

Wuthnow, Robert (1999[a]) The Role of Trust in Civic Renewal. In: R.K.Fullinwider (ed.) *Civil Society, Democracy, and Civic Renewal*. Lanham, Boulder, New York and Oxford: Rowman and Littlefield, pp.209-230.

Wuthnow, Robert (1999[b]) The Culture of Discontent. Democratic Liberalism and the Challenge of Diversity in Late-Twentieth-Century America. In: Neil J.Smelser and Jeffery C.Alexander (eds.) *Diversity and Discontents. Cultural Conflict and Common Groud in Contemporary American Society*. Princeton, New Jersey: Princeton University Press, pp.19-35.

山口いつ子 (1994[a]) 「プレス of 「イメージ」 とその規範的機能 -L.ボリンジャーの『自由なプレス of イメージ』を素材として-」 東京大学社会情報研究所編『放送制度論のパラダイム』 東京大学出版会、47-76 頁。

山口いつ子 (1994[b]) 「ポストモダニズムと表現の自由」『東京大学社会情報研究所紀要』 No. 47, 26-44 頁。

山口節郎 (1985) 「労働社会の危機と新しい社会運動」『思想』No.737、1985 年 11 月、15-36 頁。

山本武利 (1973) 『新聞と民衆 -日本型新聞の形成過程-』 紀伊國屋新書。

山本武利 (1981) 『近代日本の新聞読者層』 法政大学出版局。

読売新聞社 (1998) 『1998 媒体資料 [データ編]』。

吉田民人, 鈴木正仁 (編著) (1995) 『自己組織性とはなにか : 21 世紀の学問論にむけて』 ミネルヴァ書房。

吉見俊哉 (1994) 『メディア時代の文化社会学』 新曜社。

Young, Iris Marion (1996) Communication and the Other: Beyond Deliberative Democracy. In: Seyla Benhabib (ed.) *Democracy and Difference. Contesting the Boundaries of the Political*. Princeton, NJ: Princeton University Press, pp.120-135.

Young, Iris Marion (1999) Difference as a Resource for Democratic Communication. In: James Bohman and William Rehg(eds.) (1997) *Deliberative Democracy. Essays on Reason and Politics*. Cambridge, Massachusetts and London, England: The MIT Press, pp.382-406.

Zelizer, Barbie (1999) Making the Neighborhood Work: The Improbabilities of Public Journalism. In: Theodore L.Glasser(ed.) *The Idea of Public Journalism*. New York and London: Guilford Press, pp.152-172.